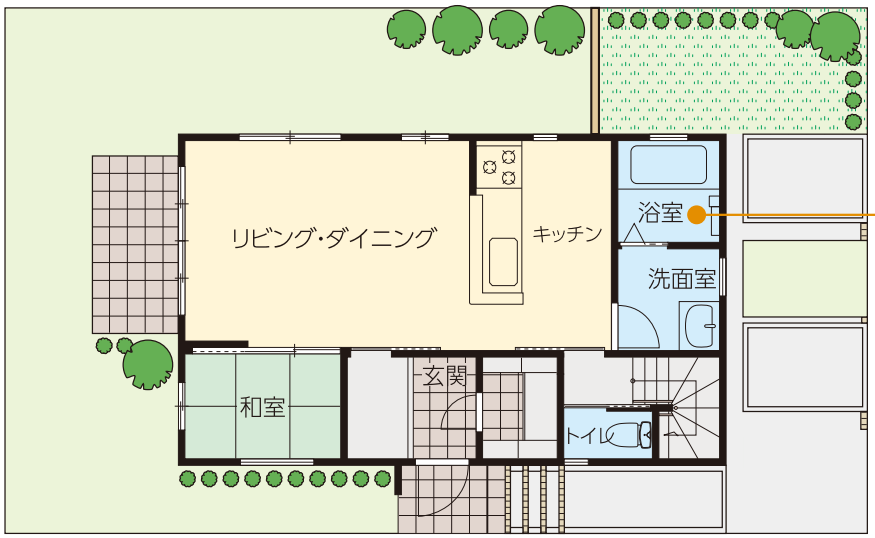
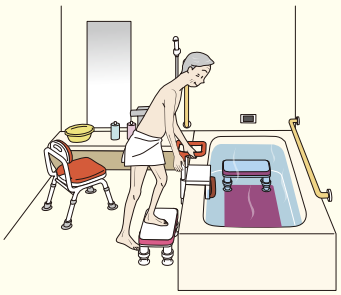
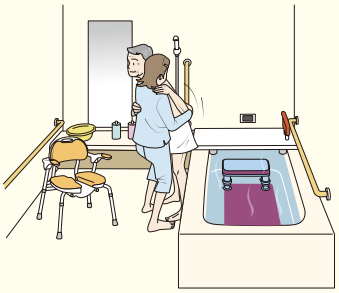
浴室まわりの改修例

Ⅱ



利用者の身体能力レベルによる介護用品の選定

	身体能力に合わせた入浴に望ましい空間
一人で入浴する 要支援1・2 要介護1 **自力で、または介助があれば階段の昇り降りができる。** 階段を使える程度に足腰がしっかりしているので、入浴もほぼ自力でできると考えてよいですが、浴室には手すりなどを設置しておけばより安心です。 **自力で、または介助があれば安定して歩くことができる。** サポートがあれば安定して歩くことができるので、入浴も一人でできるでしょう。ただし入浴中のあらゆる動作を助けるための工夫が欠かせません。	
介助してもらって入浴する 要介護1～3 **階段の昇り降りは困難だが車いすを使って自立している。** 足腰の筋力が弱いため浴槽をまたぐような行為はたいへん危険です。本人の力で身体を支えられるよう、手すりなどを設置してサポートしましょう。 **自力で座ることができる、または介助があれば立つことができる。** 普段の生活の中では比較的自立していますが、入浴の際の立ち座りなどでは自立心を尊重しながら、細やかな介助が必要となります。	
身体を拭いてもらう 要介護4～5 **ベッドから車いすへの移動には全介助が必要。** 自分の力で座ることができれば、手の届く範囲のことは自立して行うことができるでしょう。ただし下半身の力が弱いため、移動を伴う入浴には全面的な介助が必要です。 **ベッドで座った姿勢を保つには全介助が必要。** 座る際には姿勢を保つため、ベッドの背を起こすなどの工夫が必要。入浴は大変なので、普段は清拭をして清潔さを保つようにしてください。	